

酒田市総合計画審議会 第2回ひとづくり・まちづくり部会 議事要旨

1 日時

令和3年12月28日(火) 14:00~16:00

2 場所

酒田市役所 703号室

3 出席者

【酒田市総合計画審議会 ひとづくり・まちづくり部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田市自治会連合会連絡協議会	阿部 建治	部会長
酒田市社会福祉協議会	阿部 直善	
酒田市法人保育園・認定こども園協議会園長会	池田 祐子	
酒田ユニサイクル ケセラ	石黒 由香	
酒田市環境審議会	大井 文	
リトミックスタジオ passage	加藤 千鶴	
東北公益文科大学	神田 直弥	
株式会社オリーブ	工藤 佐規子	
酒田市食生活改善推進協議会	佐藤 初子	
生涯学習施設「里仁館」	富士 直志	
合同会社とびしま	松本 友哉	
庄内みどり農業協同組合	御船 浩弥	

【事務局】

副市長、総務部長、危機管理監、地域創生部長、市民部長、健康福祉部長、健康福祉部地域医療調整監、建設部長、農林水産部長、教育次長、教育次長(教)、企画部長、企画部デジタル変革調整監、企画調整課長、企画調整課職員

4 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は12人であり委員定数13人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条第2項の規定により、本日の会議は有効である。

5 あいさつ

ひとづくり・まちづくり部会長 阿部 建治
酒田市副市長 矢口 明子

【阿部部会長】

今回は3グループに分けて行うことにした。いろいろとご意見をいただきたいと思う。より良い総合計画をつくっていききたい。よろしくお願いします。

【矢口副市長】

私からお願いしたいことは、行政目線ではなく市民目線、委員の視点で書かれているか、市民みんなの計画になっているかどうかの点から指摘や意見をもらいたい。地域、市民、企業、行政がいろいろなことをしているので、それらを包含したような計画になっているかどうか。スペースが限られるので行政がやっていることが中心になると思うが、全体を俯瞰したうえで書きぶりになっていないと委員をお願いした意味がない。そういう視点で見直してもらいたい。よろしくお願いします。

6 審議

(1) 現状における課題について（1回目）

・参考資料に沿って事務局より部会の進め方について説明。今回は2回に分けて話し合いを行う。1回目は第1章、第4章及び第5章の現状における課題をグループごとに議論した後、その内容を全体で共有する。2回目はひとづくり・まちづくり部会所管政策全体について全体で議論する形で行う。

○現状における課題についての意見等（グループ単位での討議結果）

【第1章 未来を担う人材が豊富な酒田】

〔政策1 協働の芽吹きとなる市民参加があふれるまち〕

- ・施策3 広報誌の意見数は、KPIとして適切なのか。
- ・地域共創人材は増加から活用のフェーズにきている。
- ・市民活動に対しての長期的な支援が課題
- ・公益活動団体協働提案負担金制度の活用が課題

[政策2 大学とともにつくる「ひと」と「まち」]

- ・課題解決のためのコーディネート
- ・大学と行政（ほか）によるプラットフォーム・「場」が必要
- ・地域IT、どのような人材か？
- ・大学が地域に開かれている。情報も発信されている。
- ・学生が行く場所（お店）がない。
- ・サテライトキャンパス
- ・大学の課題ではなく連携の中での課題を記載すべきでは。

[政策3 公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち]

- ・インクルーシブ教育、どこに入れるか。いろいろな側面があるが、ここ（施策4）でいいのか。ダイバーシティなどの観点も入れては。
- ・学力で評価される社会。そこに入れなかった子どもをフォローできる酒田市に。
- ・酒田にいた人が酒田に帰る。教育の視点からのアプローチ
- ・県内就職率を高めるため高校への働きかけ。酒田の良さの伝え方。18歳選挙権などを酒田市の課題の気づきのきっかけにする。
- ・楽しい場所があれば離れない。イベント、活動の場所を。
- ・防災教育について教員の資質向上のほかに教材開発を入れてはどうか。
- ・GIGAスクール構想の記載、何もやっていないような書きぶりである。
- ・小中一貫教育と学区改編は別と以前は言っていた。方向性が変わったと捉えられないように書きぶりを薄めては。

[政策4 学びあい、地域とつながる人を育むまち]

- ・小中一貫を支えるのは地域。地域の問題を考えるため学校に集まる。子どもをみんなで応援することが希薄になっている。
- ・スポーツに触れる機会のない人達への施策。種は行政がまく、育てるのは地域
- ・コミセン活動の充実が文化センターの空洞化につながっているのでは。そのことにより活動場所がなくなっている。
- ・GIGAスクール構想により小中学校に配備されたタブレットで地域のことを学べるようにしてはどうか。

【第4章 暮らしと生きがいを共に創り、お互いが支え合う酒田】

[政策1 誰もがいきいきと暮らしやすいまち]

- ・政策1のキーワードとして担い手不足、孤立、アンコンシャスバイアス、多言語発信が挙げられる。
- ・担い手不足の原因は少子高齢化だけではなく、働く期間が延びたことも影響している。
- ・現役（支える側）と高齢者（支えられる側）を分けてはいけない。
- ・現役世代が地域に入っていくために、地域の仕事の棚おろしが必要。

・地域包括への市の関わり方も整理する必要がある。

[政策2 結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまち]

- ・政策2のキーワードとして未婚率増加、条件のミスマッチ、不妊治療への理解、保育等の需要増、特定妊婦、ヤングケアラーが挙げられる。
- ・保育の利用に関しては、生活している地域によって利用制限があるように感じる。
- ・現時点で定員割れとなっている保育園等もあり、保育士不足という課題は変わりつつある。
(少子化で子どもが減り続ければ、いずれ保育士が余ることとなる)
- ・法人園と公立園(調整弁)で入所児童数のバランスをとる必要がある。
- ・医療費の無償化や、保育料軽減策の成果も記載すべき。
- ・ひとり親や困窮世帯の子どもの学習支援は、他事業と組み合わせてより良いものにしていければ良い。

[政策3 健康でいつまでも活躍できるまち]

- ・政策3のキーワードとして健診受診率、健康センター、自殺対策、看護学校入学者確保が挙げられる。
- ・男性は仕事をリタイア後、健診を受けない人が多い。
- ・食改では男性料理教室で健診受診の呼びかけをしているが、周知の仕方を考える必要がある。
- ・課題が特定指導と歯に限定されている。生活習慣病予防の一つとして食べることの重要性も記載すべき。
- ・自殺は原因が様々であり、非常に難しい課題であるため、できる範囲で原因等を抑えていくしかない。

【第5章 地域のつながりと安全・安心にあふれた暮らしやすい酒田】

[政策1 住民と行政の協働による地域運営ができるまち]

- ・自治会のアップデートが必要
(オンラインコミュニティ) オンライン化していく、高齢者のフォロー要
- ・地域おこし協力隊が少ない→単独ではその後の展開が広がらない
5~10倍でも可
- ・自治会館の老朽化は課題
避難所ともなる→コミュニティ振興会、コミセンが基本
- ・民生委員(大変な仕事である)の担い手が少ない
包括支援センター(強化が必要)との連携が難

[政策2 「全員参加」でつくる美しいまち]

ごみの出し方各家庭の意識づけ 子どもへの教育が大事、出前講座で大人の意識も変化
紙ごみの出し方…子どものいない世帯にも周知要

無電柱化鳥海山もきれいに見える 観光客が増えたがごみも増→まちの美化誘客にもつながる
山形市:ごみひろいボランティア用のごみ袋がある(何でも入れていい)

美化サポボランティア活動（袋・資材は提供） 12,000人を超えるサポーター（増加しているが高齢化） 森林ボランティア（共につくる）を育てることも大事

- ・分別するときに、ごみの種類の分析をしては←ポイ捨てをいかになくしていくか

[政策3 地域との連携でつくる安全・安心なまち]

- ・避難所の備品を空き教室に入れては。
- ・「希薄化しています」…庄内ではそんなことはない。記載の再考を（大火、地震）。
- ・防犯協会の人材不足…具体的に求める人材とは。人材不足は「高齢化等」でよいのでは。
- ・（増加傾向の）危険空き家を減らす
- ・消防団になり手がいない 昼の火事に対応できない ねばり強い検討を続けていく（予備自衛官の消防団加入も）

[政策4 「暮らしの足」が維持されるまち]

- ・公共交通
誰も乗っていないバス→デマンドへの切り替え
- ・高齢者へデジタル化の周知は大事（乗り場が不明（ビデオ作成して説明））
80歳代まで免許を持つ人が多い→急に公共交通には切り替えられないのでバスツアーはグッド
- ・定期船
県も巻き込んで協議の場をつくる
船が出たときに快適かどうかも大事な視点

[政策5 自然環境、歴史、文化、産業で多様性を広げるまち（八幡、松山、平田地域と飛島）]

飛島

- ・住民、仕事は課題
就航率UP→観光業に直結
光ファイバー→IT企業の誘致→雇用創出にもつながる
住居…水洗化が遅れている
- ・有償ボランティアで人材を集める
- ・リタイア後の農作業
- ・ボランティアの乗船料の割引←制度あり 周知に力を入れる
- ・ネットワークの可視化
困りごとをあげて協力者をつくる
- ・乗船料無料化は反対 30分ごみを拾って終わりでは ボランティアだけではなく楽しみもある

(2) 現状における課題について (2回目)

(部会長) 第1章、第4章、第5章について、委員の皆様から追加すべき事項や、視点が違う

といった点など意見があれば発言をお願いします。

(委員) 第1章の地域共創コーディネーターの養成、役割については、成果にも課題にも記載があるが、その人たちが、その後どういう役割を果たすべきなのか、もしくは果たしたいのか。この点の記載が根本的に抜けていると思う。そういった方がどういう身分で、どういう立場で活動するのか、どういう役割を果たすことを期待するのか、そういったことを記載したほうがよい。

第5章の地域公共交通について、無人運転の実証実験など過疎地で有効なのではないかという話もある。こういったところにこそDX化があっても良いと思う。課題として補強した方が良いのではないか。

⇒(企画部長) 地域共創コーディネーターについては、第1章のグループで、次のステージで何をするのか、活用についての記載が抜けていないかと言った話題が出たところである。先ほどの意見の共有の際にそこが抜けてしまった。指摘の件については、記載するよう検討する。

⇒(デジタル変革調整監) 無人運転、自動運転については、各地で実証実験が行われているが、新たな実証実験の予定となるとなかなか国土交通省の採択が下りない。ハードルが高くなっている。酒田市としては、飛島でスマートアイランド実証事業調査というものをやっている。小型の電気自動車を使った宅配システムに今年度取り組んでいる。来年度以降、自動運転も想定した上で取り組んでいきたいと思っているが、総合計画にどのように反映させるかについては、事務局と相談させていただきたい。

(委員) 自治会館の老朽化について触れられていないと思う。それぞれの会費で賄うことが難しいという記載があったが、ここは避難所ともなるべき場所。コミュニティセンターとともに防災の場所として確保していただきたいと思う。

⇒(市民部長) 危機管理という視点でご意見をいただいた。自治会館は、地域の拠点であり、地域住民が地縁団体として持っている施設である。酒田市でも、修繕等の支援制度を持っているので、ささやかではあるがその制度で支えていきたい。コミュニティセンターについては市の施設であり防災の拠点となるので、しっかりと対応させていただきたいと考えている。

(委員) 飛島については、人が楽しく暮らせるライフラインをまずは整えるというのが重要。水洗化をして、船がちゃんと出て、仕事は光ケーブルが敷設されるのでそれで雇用創出できる。あとは飛島で頑張るので、そこを明記してもらえればよい。

7 その他

(部会長) その他として何かないか。

⇒(企画調整課長) 今回こういった形で、委員の皆さまと担当部長が意見交換でき事務局としては大変よかったと思っている。今回皆様よりいただいた課題について、しっかり政策課

題集に書き込んで、改めてお示ししたいと考えている。

政策課題集については、市議会にも示す予定である。議会からも活発な議論をいただければと思っている。新年度には、改めて課題に対する施策を取りまとめ、後期計画ということで9月議会に提案していきたい。令和5年度予算からは、後期計画を反映させた予算ということで5年間進めていきたいと考えている。引き続きよろしくご審議をお願いします。

(副市長あいさつ)

お忙しいところご審議いただき感謝する。

話したいことは、企画調整課長が全部言ってくれた。これから先もしっかりとやっていきたいので、引き続きご協力をお願いします。各部長と委員の皆さまがざっくばらんにお話できる機会を持てたことは本当によかった。普段からこのような話し合いができればいいと考えている。そういった機会をつくっていききたいと思う。意見があればいつでも言っていただきたい。

○連絡事項（事務局より）

- ・次回の部会の日程は、来年1月26日（水）午前10時から開催させていただく。

8 閉会

以 上